

健保組合 過去最大赤字

2023年度予算 高齢者医療へ拠出金増

健康保険組合連合会
(健保連)は20日、大企業の従業員と家族が加入する健保組合の2

た13367組合のデータを基に全て3380組合の推計値を算出しました。

保険料収入は前年度比2・8%増の8兆5000億円。これに対し、高齢者医療への拠

出金が7・3%増の3兆7067億円に膨らむ影響などで、支出は収入を上回る伸びとなり、経常収支の赤字は

前年度(2805億円)と比べ倍増しました。赤字団体は109組合で全体の約8割を占めました。

各組合が設定した保

障率の平均は0・015%増の9・27%と過去最高を更新しました。中小企業社員らが加入する「協会けんぽ」の平均保険料率である10%を上回り、「解散予備軍」と目されるのは、309組合で全体の2割を超えた。

田のマイナスで、過去最大の赤字額となりました。高齢者医療への拠出金増加が主な要因で、收支差を全て保険料引き上げで賄う場合の「実質保険料率」の平均が過去最高の10・10%に達するなど、厳しい財政状況が続いています。

集計は、回答があつ